

Dr.'s REPORT

RF SYSTEM lab.

ドクターズ・レポート | RFよりドクターから生の声を伝える情報誌 2006

今月のレポート医院

さいとう小児科医院 様
(広島県福山市)



「現像不要」これが一番のメリット

これまでは暗室でのフィルム装着に手間がかかっていました。デジタルX線NAOMIなら、こういった作業はもちろん必要ありません。暗室やフィルムの保管場所も不要になるので、あまったスペースを他の目的にも利用できそうです。また現像作業の手間や特有のにおい、消耗品のコスト、機械のメンテナンス費の負担からも解放されました。すぐに診断をはじめられるので、その分患者さんへの対応に時間を使うことができます。導入もしやすいので開業医には嬉しいシステムです。

後からの確認も簡単

撮影の操作はフィルム撮影の場合と変わらないのでスムーズにデジタルに移行でき、パソコンの操作も簡単でした。当医院では胸部撮影をメインに使っていますが、フィルムと比べても、画像は全く問題ないレベル。手軽に画像の調整もできます。また後から画像を見直したい時もパソコン上で行えるので、仕事の効率が上がりました。保管庫でフィルムを探すのは職員の手間もとりますからね。

患者さんやスタッフの方の反応

患者さんが「すごいですねー!こんなのはじめて見ます」と驚かれます。ちょっと前までは、現像のあいだ待つのが当たり前でしたから…。当院は小児科診療所ですが、撮影後すぐに画像を表示できるので、小さいお子さんを待たせることなく、診断や説明を始められます。保護者の方の「安心感」にもつながるようで、大変喜ばれています。職員にも好評で、医院のイメージアップにつながっています。

X線のデジタル化について

将来、このデジタルX線センサーが主流になるのは確実。「NAOMI」は時代を先取りしています。導入して大いに満足しています。



Dr.'s
REPORT



「現像不要」?

デジタルX線「NAOMI」は、フィルムのかわりにセンサーを使用します。照射したX線をセンサーが捉え、画像をデジタルデータに変換。わずか数十秒でモニターに画像表示をします。つまり、従来のようなフィルム現像の手間は一切必要ありません。それに伴い、今まで必要だったフィルムや現像液などの消耗品も不要。またデジタルX線「NAOMI」は画像をダイレクトにパソコンのモニターに表示するので、CRシステムのような画像読み取り機も不要です。

12
vol.01

レントゲン
デジタルX線センサーが
主流になるのは確実